



# 比田勝市政3期目スタート

しま  
対馬の良さを、次世代へつなぐ街づくり

3月3日に行われた対馬市長選挙で再選を果たした比田勝尚喜市長。対馬のリーダーとしてこれまで歩んできた8年を振り返るとともに、様々な課題に直面する対馬の舵取りを、どのように行っていくのかなどについてインタビューしました。

## 比田勝尚喜市長 プロフィール

昭和29年9月15日生まれ(69歳)

特 技：剣道（教士7段）

座右の銘：「為せば成る、  
為さねば成らぬ何事も…」

昭和52年 4 月…上対馬町役場奉職  
平成13年10月…上対馬町水産振興課長  
平成16年 1 月…上対馬町水産観光課長  
平成16年 3 月…対馬市上対馬支所産業振興課長  
平成17年 4 月…対馬市政策部情報政策課長  
平成22年 1 月…対馬市農林水産部長  
平成25年 7 月…対馬市退職  
平成25年 8 月…対馬市副市長  
平成27年10月…対馬市副市長退任  
平成28年 3 月…対馬市市長就任  
令和 2 年 3 月…対馬市市長(2期目)  
令和 6 年 3 月…対馬市市長(3期目)

## 市長としての2期8年を振り返り、どのようなことが心に残っていますか？

市長として「誰もが誇りを持つことができる対馬」を目指すべく、様々な取り組みを行ってきました。

1期目の4年間は、国際航路への混乗便が実現するなどした結果、交流人口の拡大をはじめ、ふるさと納税返礼品事業の拡大など、各方面に対馬をアピールすることができました。そのほかにも様々な施策を実現することができ、自らが思い描いていた成果を上げることができたと思っています。

2期目をスタートさせた2020年3月は、新型コロナウイルスの感染が全国に拡大、長崎県でも感染者が初めて確認された頃でした。その後、昨年5月に5類感染症になるまでの3年間は職員とともに対応にあたり、2期目の多くの時間をコロナ対応に費やすことになってしまいました。コロナ禍直前におこった日韓関係の悪化による対馬へのインバウンドの激減などと合わせ、対馬にとって大きな痛手となったことは非常に残念でしたし、動きたくても動けなかったという悔しさが残る3年間でした。



新型コロナウイルス感染対策を市民に呼びかける

新型コロナウイルス対策については、何もかもが手探りの状態で、感染拡大を防ぐことはもちろん、治療、療養の対応、ワクチン接種対応などを、各関係機関と連携し確実に実施してきた市職員の頑張りには本当に感謝しています。また、感染対策の徹底をはじめ、予防の観点から活動の自粛をお願いするなど、市民の皆さんには、大変なご苦勞をおかけすることとなりましたが、皆様のご理解のおかげでコロナ禍を

乗り越えることができました。広大な面積を持つ離島であり、高齢化率の高い対馬において、いつ感染が拡大するかもしれないというプレッシャーと日々向き合うことは大変だったなと振り返っています。

これまでに経験したことのない出来事に翻弄された2期目でしたが、その中でもうれしかったこととして、対馬市がSDGs 未来都市に選定されたことが挙げられます。海洋環境の変化による水産業への影響や人口減少、海洋プラスチックごみ対策など山積する対馬の課題に対し、SDGsを通じてこれらの問題に向き合ってきた姿勢が評価されたことは、誰一人取り残さない豊かな対馬づくりを目指す私にとって、とても喜ばしいことでした。

その中でも、海洋プラスチックごみに関する取り組みにおいて、島外から多くの賛同をいただくことができ、具体的に動き出すことができたことは大きなトピックです。年間、3万㎡以上の海洋ごみが流れ着く対馬は「日本一海洋ごみが流れ着く場所」と言われるまでになり、その対策に多くの時間と労力を費やしてきました。最近では、海洋ごみが地域だけでなく、全世界的な課題と認識されるようになったことで、対馬が国内外の注目を集めるようになりました。昨年5月には「海の保全と繁栄」の社会課題解決を目指す企業連合である一般社団法人ブルーオーシャン・イニシアチブとの包括連携協定締結を皮切りに、海洋ごみをはじめとする問題解決に取り組む会社に対馬に生まれるなど、これまで対馬に影を落としていた存在が、光り輝く存在として生まれ変わる過程に進んできたと言えると思っています。



米韓の駐日大使とともに海洋ごみを清掃



## 市長として対馬の現状をどのように感じていますか？

まずは、海について。対馬は島ですから、海とは切っても切れない関係です。そのような中で海水温の上昇など海洋環境の変化によって、これまで豊富な水揚げを誇っていたイカの不漁をはじめ、磯焼けによる海藻の激減、それに伴うアワビやサザエなどの減少といった水産資源の減少には強い危機感を持っています。海だけでなく、林業や農業といった島の第一次産業全体が厳しい状況に置かれていることは十分認識しているところです。

観光産業については、インバウンドの減少やコロナ禍を契機に国内の観光客に対馬を訪れていただく機会が増えてきました。これまでは、珍しい島の自然や歴史に触れていただくことが、観光の一番の目的で良かったと思うのですが、これからはそれだけではいけないと感じています。また、外国人観光客が年間41万人以上押し寄せることで生じた、いわゆる「オーバーツーリズム」への対応も行っていく必要があると思っています。

人口減少については、全国的に進んでおり、対馬だけの問題ではないのですが、スピードは他地域より速いことから、喫緊の対策が必要だと考えています。特に市内に独身の方が多くいらっしゃることで、年間の出生数が減少している現状に危機感を感じています。

他方、有人国境離島法の恩恵もあり、本土地域との行き来など、島に住む人たちの生活の質や利便性は向上していると感じています。また、離島ではありますが、ヘリ搬送を含め医療体制

は本土地域に近い状況が提供できているのではと感じています。移住者も年々増え、昨年度は170人ほどの方が対馬に来てくださっています。

## 3期目の市政についてのお考えをお聞かせください。

現状の中で課題として上げていることですが、人口減少については、国全体の人口が減っていることを考えると、減少を止めることは厳しいと感じています。しかし、その流れを緩やかにすることはできると思いますし、やらなければいけないことだと思っています。

その中で、いわゆるマッチングという男女の仲を取り持つ取り組みも、参加対象の拡大を考えていきたいと思っています。

また、マッチングだけで終わるのではなく、その後の結婚や子育てにもお手伝いができるように取り組むことで、人口減少や少子化についても良い影響を与えるのではないかと考えています。

企業誘致についても、通信回線の向上に向けた施策など、環境整備を行ってきました。これにより、リモートワークやワーケーションなどに対応するだけでなく、地域が抱える課題解決に取り組むことに企業価値を見出している企業を呼び込むことができます。現在、誘致に向けて複数の企業に声をかけているところです。実現すれば、島内での仕事に幅ができ、若者や移住者の定住促進につながると考えています。

水産業をはじめとする第一次産業や観光産業は、これからも対馬の柱として大切にしていきたいところですが、それぞれが独自の取り組みを行ってきたことで、十分にその魅力を発揮できず、資源を利活用しきれなかったところがありました。すでに取り組み始めているところもありますが、水産業の現場と観光業を結びつけ、単に対馬で魚を食べるだけでなく、見学や体験を含めたいわゆる「海業」の推進など、観光や研修で対馬に来る人たちに対し、より幅の広いコンテンツ作りを行っていきます。当然、水産業だけでなく、林業や農業など、対馬の恵みをフルに活用した取り組みを考えていきます。



## 市長が思い描く対馬づくりの中で、私たち市民の役割は？

市長として、対馬の未来をいろいろと思い描いていますが、市民の皆さんに活躍していただかなければ、絵に描いた餅となってしまいます。対馬の魅力を発信し、多くの人に対馬に来てもらっても、夕食に対馬で採れた新鮮な魚が出なくては、意味がありません。対馬の伝統的な家屋や伝統的な風習がなくなってしまうのは、対馬に来る意味がなくなってしまうです。皆さんの日々の暮らしの中に残る対馬らしさを次世代につないでいく必要があるのです。これは「昔の暮らしに戻せ」とか「不便な暮らしをしなさい」と言っているわけではありません。対馬らしさを芯にして、新しいもの、便利なものをうまく取り入れながら生活をしていくことが大事だと思うのです。日々の暮らしを磨き上げ、高めていくこと（ブラッシュアップ）こそ、SDGsが意味する、持続可能な社会の実現につながる大切な部分だと考えます。

## 対馬の舵取り役として見えている対馬の未来はどんなものですか？

対馬は、大陸との交流の歴史に代表される、対馬にしかないもので溢れています。それは、対馬に住む人たちの考え方や生活の仕方にも現れています。目指すべき対馬の未来は、都市部と違う時間の流れを作り出すことではないでしょうか。対馬に住む私たちが、悠久の歴史や自然環境に根付く、ゆるりとした時間を演出し、対馬以外に住む人たちに提供することができれば、対馬は世界に誇ることができるリゾートの島になると思っています。まさに、ミュージカル「対馬物語」で、宗義智が父である宗義調が残した言葉として口にする「島は、島なりに治めよ」という台詞そのものです。

市長という仕事は、価値観や意見の相違によって市民が分断した時、これからこの島が進むべき方向性を見極め決断して導くことだと、2期8年の任期を振り返り、強く感じています。

これからの4年間、私が見えている世界をより多くの人と共有し、皆さんとともに歩みながら、対馬をより良い島にできるよう、舵取り役を務めてまいります。



## 市長が掲げる5つの未来創造戦略

### 1. 守る

- 健康自治体（健康寿命）の改善
- 安心な老後への地域包括ケアシステムの充実
- 高齢者社会への健康スポーツ活動の推進

### 2. 育てる

- 孫ターンなどの離島留学制度の拡大と充実
- ICT教育の拡充によるデジタル人材の育成
- 郷土愛に満ちた対馬っ子の育成（夢づくり）

### 3. 働く

- 海業の積極的な推進と漁村の活性化
- 富裕層向けの高級ホテルの誘致やツアー造成
- 人口減少対策と雇用確保のための創業支援

### 4. 整える

- 空き家活用などでの移住・定住施策の拡大
- 出産と子育て環境の拡充（夢づくり）
- 道路と生活基盤などの整備拡充
- 更なる有害鳥獣対策による農地と荒廃した森林の再生

### 5. 攻める

- 女性活躍社会の推進
- 通信環境の改善によるワーケーションなどの推進とSDGs関連などの企業の誘致の促進